

【研究テーマ】

放射線治療提供体制における「看護モデルの構築」

—がん放射線療法看護認定看護師(CN)の効果的・効率的な活動を目指して—

【研究分担者】

草間朋子(東京医療保健大学 名誉教授)

【研究協力者】

有阪光恵(東京ベイ・浦安市川医療センター)、加藤知子(東邦大学)、
菊野直子(東京医療センター)、畑清子(埼玉医科大学国際医療センター)
三上恵子(量子科学技術研究開発機構)、萬篤憲(東京医療センター)

【研究方法】

質問紙調査により、CNが在籍している全国 **174** の医療施設の

看護部長(139名)、看護師(566名)、放射線腫瘍医(350名)、CN(196名)から

①CNの活動実態

②CNの活動上の課題等

に関する意見を収集した。

【がん放射線療法看護認定看護師が行っている業務(CN(196名)の回答)】

	n	%
放射線治療を受けた患者さんや家族からの相談への対応	175	89.3
これから放射線治療を受ける患者さん及び家族への放射線治療の補足説明	174	88.8
放射線治療を受けた患者さんの症状アセスメント	174	88.8
病院の看護師を対象にした放射線看護に関する研修	166	84.7
放射線治療患者が入院している病棟の看護師に関するコンサルテーション	158	80.6
放射線治療患者が通院している外来の看護師に関するコンサルテーション	128	65.3
放射線科看護師に対する放射線看護に関する研修	110	56.1
放射線科の看護師に対する放射線看護に関するOJT	105	53.6
その他	60	30.6

参考：

法令上、放射線診療に直接関わる業務は「診療の補助」行為には含まれない。
このため、CNは、放射線治療に関わる医療的介入を行うことはできない。

【CNの配置により変化したこと】

資料30

＜看護部長(138名)の回答＞

熟練した看護技術を用いて高い水準の看護を提供できるようになった	72.7 %
放射線治療感受者の不安が減少した	69.1 %
看護師の放射線に対する不安が減少した	36.7 %

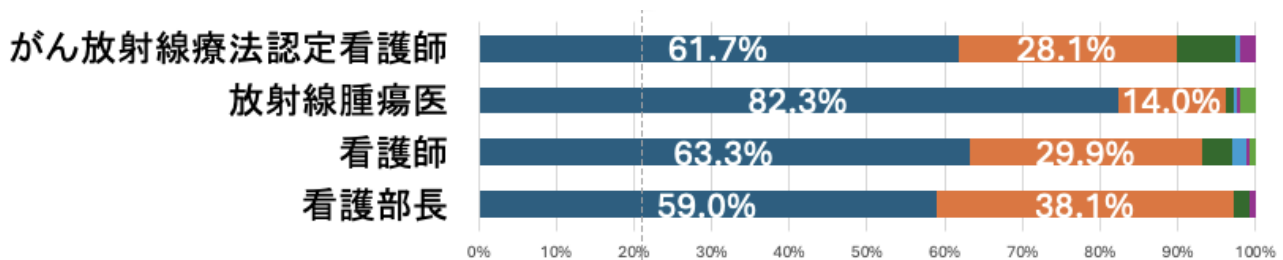
＜看護師(566名)の回答＞

なんでも相談できる	76.0 %
医師には質問しにくいことも質問できる	62.0 %
患者のケアに自信がついた	46.5 %
OJTにより放射線治療に関する知識・技術が身についた	39.2 %
OJTにより放射線に関する知識が身についた	38.2 %
放射線科に勤務することの不安が軽減した	21.0 %

＜放射線治療医(277名)の回答＞

放射線治療中のケアが行き届くようになった	98.6 %
患者の治療に対する理解・協力が得られ治療がやりやすくなった	87.4 %
放射線治療に対する患者の不安が減少した	83.0 %
治療終了後のケアが行き届くようになった	65.7 %
医師からの患者への説明に費やす時間が短縮した	58.1 %

【CNの配置の必要性】



【CNとしての活動ができているか(CNの回答)】

役割を発揮できている	28.1 %
満足のいく実践活動ができている	70.9 %

【CNとしての活動ができている理由(CNの回答)】

CNとしての業務を行う時間的余裕がない	72.7 %
病院の管理者のCNに対する理解が不足している	38.1 %
院内でCNとしての活動範囲が不明確である	36.7 %
看護師のCNに対する理解が不足している	32.4 %
自分自身の知識・技術が不足している	26.6 %

看護部長109個)、看護師(312個)、放射線治療医(312個)、CN(194個)から回答のあった自由意見(927個)を質的に分析し、以下の2点について検討

- ①CNが専門職としての機能が発揮できていない要因
- ②CNが効果的に活動できるための方策

1)看護部長、看護師、放射線治療医から

「CNが専門職として機能していない」ことが指摘されたその要因として、以下の意見があげられた。

- ①CN・看護師の人員不足
看護師の配置が、病棟優先(7対1の看護基準)であること
- ②CNとしての活動時間の不足
外来看護師(スタッフ)として配置されていること
外来全般の看護業務が優先されること
CNが管理職(主任や副主任)を併任していること
- ③CNの業務が施設内で明確にされていないこと
- ④施設管理者、医師(放射線治療医以外)、看護師、事務職のCNに対する認識・理解不足
- ⑤施設管理者、医療婦タックの放射線看護(放射線治療患者は手がかからないなど)に対する認識不足・誤解

2)放射線治療におけるCNの効果的・効率的な活動のための提案(意見) —「CNの適正配置」の必要性—

【制度的な仕組み作りに対する働きかけ】

- ・がん診療連携拠点病院の**施設基準**としてCNの配置を義務付ける
現状:看護師の配置が義務つけられ、CNの配置が「望ましい」とされている
- ・**診療報酬**の加算対象(運用上、施設基準と齟齬がないようにする)の
- ・**処遇の改善**(専門職としての処遇:管理職を併任しないために)
- ・**養成施設の増設**(現状は2ヶ所)と養成教育のレベルの再検討

【施設に対する働きかけ】

- ・CNの適切な配置
- ・CNの業務の明確化周知
- ・**病院管理者のCNに対する理解・認識の促進**
- ・**医療スタッフのCNに対する理解・認識の促進**
- ・**病院スタッフのCNに対する理解・認識の促進**
- ・**CNの処遇の改善**

【CNが行うこと】

- ・CNの業務の可視化とPR
- ・チームワークと他職種連携の促進
- ・CNのコミュニティー作り
- ・自己研鑽

研究成果の発表(論文)

- 1) 加藤知子, 三上恵子, 畑清子, 菊野直子, 有坂光恵, 萬篤憲, 草間朋子.
「がん放射線療法看護認定看護師 (CN)」の活動実態と課題. 看護展望. 2024,
49 (13). 1253-1259.

- 2) 菊野直子, 畑清子, 加藤知子, 有坂光恵, 三上恵子, 萬篤憲, 草間朋子.
がん放射線療法看護認定看護師 (CN) の活動及び CNの活動の活性化に向けての調査
ー放射線治療スタッフの認識ー. 日本放射線看護学会誌 (投稿中)